

昨年並みの節電が定着する関東地方、関西地方で大きく進む節電

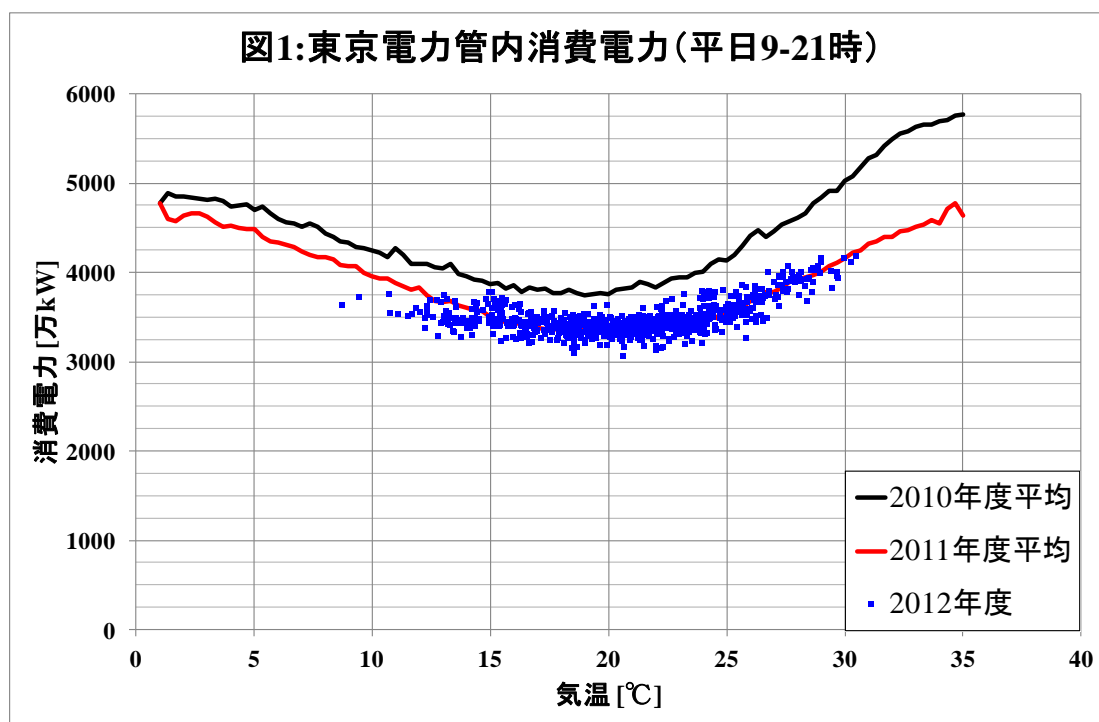
低炭素社会戦略センター（LCS）では、「停電予防連絡ネットワーク」を構築し、地域の緊急ネットワーク連絡網を活用して、節電情報などを発信し、地域住民の方々に対して節電行動への協力を呼びかけています（詳細は <http://www.jst-lcs.jp/activity/save-elect/>）。ここで発信する節電情報の作成にあたり、消費電力データの収集と解析をおこなっています。

ここでは収集したデータの一部を用い、東京電力、関西電力管内の今夏の消費電力の動向を昨年、一昨年と比較し、今夏の節電状況と電力需給逼迫の可能性について考察します。

●東京電力管内

図1は東京電力管内の平日昼間(9-21時)の消費電力と東京の気温の関係を示した図で、黒線は2010年度、赤線は2011年度、青点は2012年度のデータです。図1からは、昨年度(赤線)の消費電力が一昨年度(黒線)に比べて大きく減っていることと、今年度の消費電力(青点)がほぼ昨年度並みとなっていることが分かります。気温が31℃の時の消費電力を2010年度比でみると、2011年度では84%、2012年度では83%となっています。

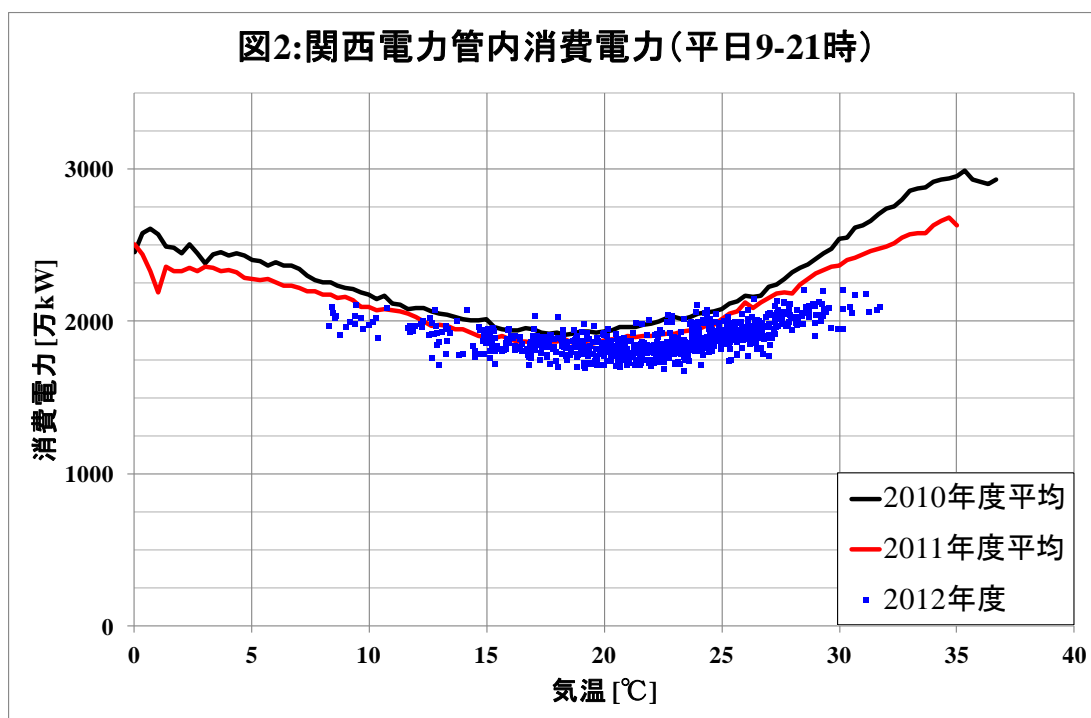
また、LCSが作成した消費電力予測モデルを用いてシミュレーションをおこなったところ、消費電力が現在の傾向で推移した場合、最高気温が38℃であっても電力使用率95%には達しないという結果が出ています。ただし、今夏に東京で最高気温35℃を超える日はまだないため(7月11日現在)、これから後、気温がさらに上昇した場合に、急激に消費電力が増大する可能性は排除できません。今後も今夏の消費電力の動向を注意深く見ていく必要があると考えています。



●関西電力管内

図2は図1と同様に関西電力管内の消費電力を示したものです(気温は大阪のもの)。昨年度(赤線)は一昨年度(黒線)に比べて消費電力が減っていますが、今年度(青点)は昨年よりもさらに大きく消費電力が減っていることが分かります。気温が32℃の時の消費電力を2010年度比でみると、2011年度では92%、2012年度では80%となっています。

また、関西電力管内についても東京電力管内と同様のシミュレーションをおこなったところ、やはり最高気温が38℃であっても電力使用率95% (LCSの発出する「節電予報レベル2」の基準)には達しないという結果が出ています。こちらについても東京電力管内同様、高温時における消費電力の動向を注意深く見ていく必要があります。



●まとめ

今夏の関西電力管内の消費電力は昨夏と比べて大きく減少しており、かなりの節電がおこなわれていると考えられます。また、東京電力管内については、電力使用制限令の発令等がないにも関わらず消費電力がほぼ昨年度並みであることから、昨年からの節電が日常的なものとして定着しつつあると考えられます。以上のことから、いずれの地方においても今夏に電力需給の逼迫の起きる可能性は低くなっていると言えます。

ただし、今夏に最高気温35℃を超える日は東京、大阪ともにまだないため(7月11日現在)、これから後、気温がさらに上昇した場合に、急激に消費電力が増大する可能性は排除できません。今後も今夏の消費電力の動向を注意深く見ていくとともに、明らかな傾向が見えた場合には適宜報告していく予定です。